第19回年次大会予稿

学生におけるWikipedia日本語版の利用動向

Trends in utilization of the Japanese Wikipedia by students

長塚隆^{1*}, 神野こずえ^{1,2}

Takashi NAGATSUKA^{1*}, Kozue JINNO^{1,2}

1 鶴見大学

Tsurumi University

〒230-8501 横浜市鶴見区鶴見2-1-3

E-mail: nagatsuka-t@tsurumi-u.ac.jp

2 現在: 紀伊國屋書店(新宿区立図書館勤務)

Wikipediaは利用者参加型のオンライン百科事典であり, インターネットに接続し, 誰でもが記事を編集できる. Wikipedia日本語版は281言語版のなかで記事数では7番目に大きな言語版である.

Wikipedia日本語版の学生を中心とした利用動向を調べるために, 認知度, 利用経験, 利用理由, 利用目的, 記事の信頼度, 記事の編集経験, 他の言語版の利用などについてアンケートを実施した. 学生におけるWikipedia日本語版の利用時の特徴を明らかにした.

Wikipedia is an open content project, meaning anyone with an Internet connection can modify or create an article. The number of articles in Japanese Wikipedia achieves a ranking of 7th out of 281 languages. It was conducted a questionnaire on utilization of the Japanese Wikipedia to ask students and other groups for their opinions on various issues such as visibility, utilization experience, reasons, utilization purpose, reliability of articles, editing practices and other languages. The features on utilization of the Japanese Wikipedia by students became clear.

キーワード: ウィキペディア, オンライン百科事典, ウィキペディア日本語版, 学生, 利用動向

Wikipedia, Online Encyclopedia, Japanese Wikipedia, Student, trends in utilization

1 はじめに

Wikipediaは利用者参加型のオンライン百科事典として, 2001年に発足してから, 急速にその規模が拡大し, 2011年4月現在で281

の言語版と1,800万件を超える記事数になっている[1]. Wikipediaの各言語版のなかでは英語版が360万件と最大の記事数である. 同じ, 2001年に発足したWikipedia日本語版は記事数は74万件で, 全言語版のうち7番目で

ある[2].

百科事典は、今日では携帯型の電子辞書やインターネットでの提供など電子的な形態での流通が中心となっている。例えば、小学館の「日本大百科全書（ニッポニカ）」をベースに「Yahoo!百科事典」が2008年からオンライン提供されている[3].

Wikipediaでは記事の自由な複製・改変を認めており、インターネットを通じ自由に文章の編集が行える。編集には、アカウントを取得することが推奨されているがなくても編集可能である[4].

従来は、Wikipedia利用者のなかでも記事の編集に貢献する利用者に関心が向けられがちであった。しかし、最近になり、「読者」や大学での利用に関心が向けられている。

Antin (2010) らはWikipediaの発展にとって、「読者」の存在の重要性とその役割について、既に作成されたWikipediaの記事へのタダ乗りではないかとの批判は不適切であるとし、記事を読むことは貢献への一形態であるとしている。さらに、読むことは記事の編集など次の貢献への第一歩となっているとしている[5].

また、Snyder (2010) は大学での学術的な資料として、Wikipediaの記事がどの程度、どのような場合に利用が可能なのかについて、大学の教員および学生で調査したところ、学生の多くが学術的な資料としても利用していること、また教員は学術的な目的以外で学生より頻繁に利用していると指摘している[6].

Wikipediaに収録された記事の信頼度については、様々な検討がなされているが、その評価については定まっているとは言えない[7]. 現在、Wikipedia記事の信頼度の測定方法について研究されている[8].

Wikipediaを運営するWikimedia財団と国連大学とによる大規模な利用者（読者と編集への貢献者）調査（回答数17万件以上）が、2008年11月に実施され、その最終報告書が公開された[9]. 利用者の66%は読むだけの読者であり、23%はときどき編集に参加し、7%は継続的な編集への参加者であった。

ここでは、Wikipedia日本語版の利用動向について学生を中心に調査した。学生がどのような時に利用しているのか、また利用の中でどのような経験をしたのかなど、具体的な利用状況を把握するために、Webでのアンケートを実施した。また、WebアンケートではWikipedia以外の他のオンライン百科事典についても調査し、Wikipediaを始めとするWeb上での百科事典の今後のあり方についての検討材料となるようにした。

2 方法

2.1 アンケート対象者

アンケートは鶴見大学文学部ドキュメンテーション学科の学生、オープンキャンパス参加の高校生、鶴見大学司書講習参加者を対象として、2010年7月から10月にかけて計4回実施し、148名分の回答を得た。

表1 アンケート調査の対象者

グループ名	対象者	男性	女性	合計
Group1	高校生	7	23	30
Group2	1年生	26	27	53
Group3	2,3,4年生	19	2	21
Group4	司書講習受講者	14	30	44
合計		66	82	148

注) Group2およびGroup3はドキュメンテーション学科の学生

2.2 Webアンケートの手順

アンケート調査には放送大学ICT活用・遠隔教育センターのリアルタイム評価支援システム (http://www.code.ouj.ac.jp/tool_service/2) を利用した。Webアンケートの実施に当たっては、手順書を印刷し配布するか、あるいは学内サーバーから手順書をダウンロードしてもらった。

2.3 Webアンケートの質問項目

Webアンケートの質問項目は、Wikipediaの認知度、利用頻度、利用理由、利用目的、記事への信頼度、利用目的に合致した記事の有無、日本語版以外の言語版の利用の有無、編集のためのアカウントの有無、記事の投稿や編集への参加程度、他のオンライン百科事典の利用の有無、他のオンライン百科事典との比較など、合計28問で構成した（末尾の付表1を参照）。

Wikipediaの認知度、利用の有無、および利用頻度については、別個の質問項目とし、個別にその内容や傾向を解析できるようにした。また、Wikipediaの利用理由や利用目的については、多くの人が利用している理由や目的として想定できる選択肢を複数設定し、それぞれの回答者ごとに複数の理由や目的が把握できるように複数回答を可とした。さらに、設定項目以外の利用理由を把握できるようにするため「その他」の項目を設け、自由記述を可とした。利用目的に合致した記事の有無についても、自由記述欄を設け具体例の把握が可能とした。

本調査ではWikipedia日本語版を対象としたが、他の言語版の利用の有無についても合わせて調査した。

Wikipediaの記事の読者としての利用の他に、Wikipedia記事の編集への参加について

も調査した。編集の為のアカウントの有無やアカウントを取った動機について、さらに、実際に編集に参加した内容について、①記事の投稿、②記事の編集、③誤字脱字の訂正、④記事投稿の依頼、⑤その他などの項目から選択してもらった。

他のオンライン百科事典の利用の有無についても調べた。Wikipedia日本語版と比較する為にも、他のオンライン百科事典の利用者にはWikipedia日本語版と同様の質問項目を設け利用状況の比較が出来るようにした。

3 結果

3.1 全体の概要

今回のアンケートでは、148名中の145名（96.6%）がWikipediaを知っており、知らなかったのは2人だけであった（表2）。この結果は、2010年6月に行われた調査での認知度85.5%と比較しても、高い認知度であった[10]。また、利用経験でも96.6%と非常に高い比率であった。高校生では90.0%、また大学1年生では96.2%と利用経験がない者がいたが、大学2年生以上と司書講習受講者のすべてで利用経験があった。

表2 Wikipediaの認知度・利用経験

グループ名	認知度（％）		利用経験（％）	
Group1	29	96.7	27	90.0
Group2	52	98.1	51	96.2
Group3	21	100.0	21	100.0
Group4	44	100.0	44	100.0
合計	146	98.6	143	96.6

Wikipediaの利用経歴を見ると、2年以上利用している者が、80%を超えていた（表3）。利用経験が半年以下の者が高校生で10%、大学1年生で5.7%いたが、大学2年生以上では

すべての学生が1年以上の利用経験があった。司書講習受講者では「2年以上の利用経験」80%以上であったが、経験の短い者もいた。

Wikipediaの利用頻度は、毎日の利用者が6.8%、週1回以上利用者が39.2%、月1回以上利用者が50.7%であった（表4）。グループ別では司書講習受講者では週1回以上利用者が52.3%と半数を超えていた。これに対して、高校生は36.6%と40%以下で最も少なかった。大学1年生は45.2%で、大学2年生以上は47.7%と週1回以上利用者は4グループの中であった。

表3 Wikipediaの利用経歴

グループ名	利用経歴					
	1ヶ月前	3ヶ月前	半年前	1年前	2年前	それ以前
Group1 人数	0	2	1	3	2	18
Group1 %	0	6.7	3.3	10.0	6.7	60.0
Group2 人数	1	1	1	5	8	35
Group2 %	1.9	1.9	1.9	9.4	15.1	66.0
Group3 人数	0	0	0	1	6	13
Group3 %	0	0	0	4.8	28.6	61.9
Group4 人数	0	1	1	5	1	36
Group4 %	0	2.3	2.3	11.4	2.3	81.8
合計 人数	1	4	3	14	17	102
合計 %	0.7	2.7	2.0	9.5	11.5	68.9

表4 Wikipediaの利用頻度

グループ名	利用頻度		
	月1回以上	週1回以上	毎日
Group1 人数	16	10	1
Group1 %	53.3	33.3	3.3
Group2 人数	27	20	4
Group2 %	50.9	37.7	7.5
Group3 人数	11	9	1
Group3 %	52.4	42.9	4.8
Group4 人数	21	19	4
Group4 %	47.7	43.2	9.1
合計 人数	75	58	10
合計 %	50.7	39.2	6.8

3.2 利用理由

Wikipediaをなぜ利用するのかとの質問では、「記事数が豊富」と「検索エンジンでの検索で上位に表示される」が、すべてのグループで利用理由の上位であった（表5）。その他の理由では、「他のサービスより便利である」が多かった、特に学生では40%以上と目立って多かった。「記事が信頼できる」ことを利用理由に挙げている比率は高校生と学生では10%前後あったが、司書講習受講者では2.3%と少なかった。

表5 Wikipediaの利用理由

グループ名	利用の理由						
	記事数が豊富	検索エンジンで結果が上位	他のサービスより便利	記事が信頼できる	書き込みやすい	自分ですぐに	その他
Group1 人数	17	11	5	3	0	1	
Group1 %	56.7	36.7	16.7	10.0	0	3.3	
Group2 人数	31	31	22	6	1	1	
Group2 %	58.5	58.5	41.5	11.3	1.9	1.9	
Group3 人数	15	13	9	2	1	4	
Group3 %	71.4	61.9	42.9	9.5	4.8	19.0	
Group4 人数	30	26	13	1	0	16	
Group4 %	68.2	59.1	29.5	2.3	0.0	36.4	
合計 人数	93	81	49	12	2	22	
合計 %	62.8	54.7	33.1	8.1	1.4	14.9	

3.3 利用目的

Wikipediaの利用目的では、「新しい用語を調べる時」が70.3%と最も多く、次いで「用語の意味が不明な時」が43.2%、「レポート作成」が40.5%であった（表6）。「新しい用語を調べる時」では、高校生が最も少なく、学生が中位で、司書講習受講者で84.1%と目立って多くなっていた。「レポート作成」では高校生と大学1年生で多く、大学2年生以上、司書講習受講者と減少していた。今回の結果は学生の学習面での成長の段階と関係づけ

て考えることが出来るであろう。

の長さや年代により大きく異なると言える。

表6 Wikipediaの利用目的

グループ名	利用目的			
	を新調し べい る用 時語	が用 不語 明の 意 時味	レ ポ 成 ト 作	そ の 他
Group1	人数 17 % 56.7	7 23.3	14 46.7	2 6.7
Group2	人数 35 % 66.0	29 54.7	28 52.8	2 3.8
Group3	人数 15 % 71.4	8 38.1	7 33.3	3 14.3
Group4	人数 37 % 84.1	20 45.5	11 25.0	10 22.7
合計	人数 104 % 70.3	64 43.2	60 40.5	17 11.5

表7 Wikipediaの記事の信頼度

グループ名	信用 して い る	ど ち ら と も い え な い	信用 して い ない	無 回 答
Group1	人数 12 % 40.0	15 50.0	0 0.0	3 10.0
Group2	人数 13 % 24.5	37 69.8	0 0.0	1 1.9
Group3	人数 6 % 28.6	14 66.7	1 4.8	0 0.0
Group4	人数 1 % 2.3	37 84.1	6 13.6	0 0.0
合計	人数 32 % 21.6	103 69.6	7 4.7	4 2.7

3.4 記事の信頼度

記事の信頼度は「信用している」21.6%、「信用していない」4.7%、この他に「どちらともいえない」69.6%で、アンケート回答者の多くが判断に迷ったようである(表7)。

「信用している」は高校生40.0%と高いが、学生では20%台、司書講習受講者で2.3%と極端に少なくなっていた。「信用していない」は高校生と大学1年生ではいなかったが、大学2年生以上で4.8%、司書講習受講者で13.6%と増加していた。

Wikipediaで信頼出来ない記事を実際に体験したのは25.7%で、体験の割合は高校生では10.0%、学生では20%前後、司書講習受講者では45.5%と大きく異なっていた(表8)。

Wikipediaで「求める記事に出会えた」が33.8%と全体の約3分の1であった(表9)。

「求める記事に出会えた」は高校生13.3%、大学1年生26.4%、大学2年生以上38.1%、司書講習受講者54.5%と大きく異なっていた。求める記事に出会えたかどうかは、利用経験

表8 Wikipediaで信頼出来ない記事の経験

グループ名	信頼出来ない記事の経験		
	はい	いいえ	無回答
Group1	人数 3 % 10.0	22 73.3	5 16.7
Group2	人数 11 % 20.8	39 73.6	3 5.7
Group3	人数 4 % 19.0	17 81.0	0 0
Group4	人数 20 % 45.5	24 54.5	0 0
合計	人数 38 % 25.7	102 68.9	8 5.4

表9 Wikipediaで求める記事の有無

グループ名	求める記事の有無		
	はい	いいえ	無回答
Group1	人数 4 % 13.3	22 73.3	4 13.3
Group2	人数 14 % 26.4	35 66.0	4 7.5
Group3	人数 8 % 38.1	13 61.9	0 0
Group4	人数 24 % 54.5	17 38.6	3 6.8
合計	人数 50 % 33.8	87 58.8	11 7.4

3.5 他言語版の利用

Wikipedia日本語版以外の他言語版の利用についての質問では、他言語版の利用経験のある人は10.1%と全体の約一割であった

(表10)．他言語版の利用者は、高校生では3.3%、大学1年生では3.8%と非常に少ないが、大学2年生以上では14.3%、さらに司書講習受講者では20.5%と、利用経験の年数や年代を反映し、他言語版の利用経験者の割合が増大している。

表10 Wikipediaの他言語版の利用

グループ名	他言語版の利用	
	はい	いいえ
Group1	人数	1
	%	29
Group2	人数	3.3
	%	96.7
Group3	人数	2
	%	51
Group4	人数	3.8
	%	96.2
Group3	人数	3
	%	18
Group4	人数	14.3
	%	85.7
Group4	人数	9
	%	35
合計	人数	20.5
	%	79.5
合計	人数	15
	%	133
合計	人数	10.1
	%	89.9

3.6 Wikipediaの編集への参加と要望

Wikipediaの編集への参加についての調査項目では、自分でも記事に書き込みが出来ることを理由に利用している人は全体で2名であった。編集のためのアカウントの取得も同じ2名で全体の1.4%に相当し、記事の編集への参加は、Wikipediaによる世界的な調査で31%を占めていたのと比較すると大変少ない割合であると言える[9]。

Wikipediaへの要望を記述してもらったところ、信憑性の向上、ページを軽く、レイアウトについて、過去の内容の表示、もっと要約を、管理体制、情報の出所の明示、記事の網羅性、視覚情報など多くの要望があった。

これらの中でも、信憑性の向上や管理体制などについての要望が多かった。

3.7他のオンライン百科の利用状況

Wikipedia以外の他のオンライン百科の利用状況を見ると、全体では52.0%と半数を超える人が利用していた。大学2年生以上では81.0%と高い比率を示した。また、Yahoo!

(日本大百科全書)利用者が大学1年生では45.3%と非常に多かった。授業で紹介されたことの反映と考えられる。

4 まとめ

学生(Group2と3)でのWikipedia日本語版の認知度は98.6%と非常に高かった(表2)。この結果は、2010年6月の調査での認知度85.5%と比較しても、高い認知度であると言える[10]。

高校生や大学1年生ではWikipedia日本語版の利用経験が半年以下と短い者が10%程度あるいはそれ以下であるがいた。大学2年生以上では、すべての学生が1年以上の利用経験を有していた(表3)。これらの結果から、大学での授業や生活を通じて、Wikipediaの利用が促進されていると考えられる。

Wikipediaの利用理由では「記事数が豊富」と「検索エンジンでの検索で上位に表示される」が多かった(表5)。しかし、学生では「他のサービスより便利である」が他のグループに比べて特に多かった。このことは、授業等を通じて他のサービスとの比較を実体験した経験などの影響が考えられる。利用目的では高校生と大学1年生で「レポート作成」が多かった(表6)。これは、授業での課題の作成などへの利用が多い実情を反映しているのではないかと。上級生で減少しているの

は、学年の進行に伴い、Wikipedia以外の資料の利用に目が向けられるようになっていくためと考えられる。

「信頼出来ない記事を実際に体験したか」や「求める記事に出会えたか」では学生と高校生や司書講習受講者とで結果は大きく異なっていた（表8, 9）。さらに、「期待する記事に出会えた体験」や「他言語版の利用経験」でも学生と他のグループ間では同様に異なる結果となり、利用経験の長さや年代に大きく依存することが明らかとなった。

Wikipediaの記事編集への参加状況の調査結果から、今回の調査対象者のほとんどがWikipediaの「読者」であることが分かった。記事編集への参加は、Wikipediaによる世界的な調査では31%であったが[9]、2008年4

月に実施された我が国での調査では編集経験者は閲覧経験者（読者）の約6%であったと報告されている[11]。これらの調査と比べても、編集経験者の比率は大変少なかった。

今回のWikipedia日本語版の利用動向についての調査で、学生がどのような時に利用しているのか、また利用の中でどのような経験をしたのかなどの具体的な利用状況が把握出来たと言える。

今後、Wikipedia日本語版の利用状況の詳細な把握や「読者」から「記事編集者」への移行の動機や移行過程を検討したい。また、他のオンライン百科事典とどのように使い分けているのかについての検討も必要であろう。

参考文献

- [1] Wikipedia>About:
<http://en.wikipedia.org/wiki/Wikipedia>About>
(2011年4月30日参照)
- [2] List of Wikipedias:
http://meta.wikimedia.org/wiki/List_of_Wikipedias (2011年4月30日参照)
- [3] Yahoo!百科事典: <http://100.yahoo.co.jp/>
(2011年4月30日参照)
- [4] ウィキペディア日本語版:
<http://ja.wikipedia.org/> (2011年4月30日参照)
- [5] Antin, Judd and Cheshire, Coye: "Readers are Not Free-Riders: Reading as a Form of Participation on Wikipedia", CSCW 2010, February 6–10, 2010.
<http://citeseerx.ist.psu.edu/viewdoc/summary?doi=10.1.1.164.9328> (2011年4月30日参照)

- [6] Snyder, Johnny: "Wikipedia as an Academic Reference: Faculty and Student Viewpoints", AMCIS Proceedings, Paper 17, 2010.
<http://aisel.aisnet.org/amcis2010/17> (2011年4月30日参照)
- [7] Wikipedia.
http://en.wikipedia.org/wiki/Reliability_of_Wikipedia (2011年4月30日参照)
- [8] Calzada, Gabriel De La and Dekhtyar, Alex: "On Measuring the Quality of Wikipedia Articles", WICOW'10, April 27, 2010.
<http://digitalcommons.calpoly.edu/> (2011年4月30日参照)
- [9] Wikipedia survey:
<http://wikipediastudy.org/> (2011年4月30日参照)
- [10] Wikipedia に関する調査:
<http://japan.internet.com/research/20100706/1.html> (2011年4月30日参照)
- [11] Wiki 定期リサーチ (7) :

<http://japan.internet.com/theme/wikiresearch/1.html> (2011年4月30日参照)

附表1 アンケート調査項目一覧

番号	項目	選択肢
1	性別	①男性, ②女性
2	学年/年齢	①1学年, ②2学年, ③3学年, ④4学年, ⑤高校生, 年齢(⑥20代, ⑦30代, ⑧40代, ⑨50代以上)
3	Wikipediaを知っていますか	①はい, ②いいえ
4	使った事がありますか	①はい, ②いいえ
5	いつ頃から使っていますか	①1ヶ月前, ②3ヶ月前, ③半年前, ④1年前, ⑤2年前, ⑥それ以前
6	どれぐらいの頻度で利用していますか	①毎日, ②週に1回以上, ③月に1回以上
7	なぜWikipediaを利用しているのですか(複数回答可)	①記事数が豊富, ②Google等の検索エンジンで検索結果が上位にくる, ③記事の内容が信頼できる, ④他のサービスより利用しやすい, ⑤自分でも記事に書き込みが出来る, ⑥その他
8	どんな時に使用しますか(複数回答可)	①レポート作成, ②授業の時などに出てきた用語の意味が不明な時, ③日常生活の中で出てきた新しい用語を調べる時, ④その他
9	記事をどのぐらい信用していますか	①信用している, ②どちらともいえない, ③信用していない
10	利用の中で信頼出来ない記事に遭遇した事がありますか「はい」と答えた方は、どのような記事だったか記述してください	①はい, ②いいえ
11	利用の中で求める記事が収録されていない事がありましたか	①はい, ②いいえ
12	Wikipediaの他の言語版を使用した事がありますか	①はい, ②いいえ
13	どの言語版を利用した事がありますか	(自由記述)
14	編集の為にアカウントを持っていますか	①はい, ②いいえ
15	アカウントを取ろうと思ったきっかけは何ですか	(自由記述)
16	実際に行った事があるものは何ですか (複数回答可)	①記事の投稿, ②記事の編集, ③誤字脱字の訂正, ④記事投稿の依頼, ⑤その他
17	今後、アカウントを取得しようと思いませんか	①はい, ②いいえ
18	[質問17]で「はい」又は「いいえ」を選択した理由はなんですか	(自由記述)
19	Wikipediaに対する要望はありますか	(自由記述)
20	Wikipedia以外のオンライン百科事典を使用した事がありますか	①はい, ②いいえ
21	どのオンライン百科事典を利用した事がありますか	①Yahoo! 百科事典, ②その他
22	いつ頃から使っていますか	①1ヶ月前, ②3ヶ月前, ③半年前, ④1年前, ⑤2年前, ⑥それ以前
23	どれぐらいの頻度で利用していますか	①毎日, ②週に1回以上, ③月に1回以上
24	求める記事が収録されていない事がありましたか「はい」と答えた方は、どのような記事だったか記述してください	①はい, ②いいえ
25	利用しているオンライン百科事典に満足していますか	①満足している, ②どちらともいえない, ③満足していない
26	Wikipediaと利用している他のオンライン百科事典では、どちらを主に利用していますか	①Wikipedia, ②他のオンライン百科
27	Wikipediaと利用している他のオンライン百科事典では、どちらの方が利用しやすいですか	①Wikipedia, ②他のオンライン百科
28	上記を利用しやすいと選んだ理由を記述してください	(自由記述)